

来日ベトナム人看護師に対する消化器内視鏡技師 研修支援プロジェクト

徳山東ロータリークラブ

プロジェクトの概要

ベトナム社会主義共和国は近年発展が著しいものの、まだまだ発展途上の国である。高度な消化器内視鏡検査及び手術をサポートする看護師にも、医師同様高度な看護技術の習得が必要であることがわかっていても、その教育まで手が回っていないのが現状である。

更に、ベトナムのハノイにあるE総合病院では2013年9月頃に消化器病センターの開設が予定されており、2012年年間3,900件行われている消化器内視鏡検査が、センター開設後は年間約5,000件へと約30%の増加することが見込まれているため、技術を習得した看護師の育成が急務となっていた。

本プロジェクトの提案は、その不足部分を補うために、下松市の周南記念病院においてベトナム人看護師5名に対し消化器内視鏡技師として必要な高度な専門技術の研修を行ったものである。

研修スケジュールは、2013年10月に2人、2013年11月に3人が、周南記念病院にてそれぞれ1ヶ月間の研修を受けた。



研修風景



研修を終えて修了式



夜間例会にて送別会

2013年(平成25年) 10月 3日 第17131号

日刊新周南 THE DAILY NEW SHUNAN

●徳山東R.C. ●
ベトナムへ日本の先進医療
周南記念病院で看護師研修
I MAYAの長年の交流で実現

下松市の徳山東ロータリークラブは、ベトナム人看護師の研修を支援するプロジェクトの一環として、10月3日(土)に、周南記念病院で研修を終えた5名の看護師に修了式を行った。式には、徳山東ロータリークラブの代表者、周南記念病院の代表者、そしてベトナムからの研修生らが参加した。式では、研修生らに修了証が授けられ、周南記念病院の代表者から激励の言葉を述べられた。また、研修生らも、周南記念病院での研修を通じて学んだことや、日本の医療技術への敬意を述べた。このプロジェクトは、徳山東ロータリークラブのI MAYAの長年の交流によって実現された。I MAYAは、ベトナムとの文化交流を促進するために、様々なプロジェクトを推進している。今回のプロジェクトは、その一つとして、ベトナムの医療水準の向上に貢献している。また、ベトナムからの研修生らは、研修を通じて日本の医療技術や文化を学ぶことができ、今後のキャリアアップに大きく役立つと期待されている。このプロジェクトは、徳山東ロータリークラブの活動の一端を窺うことができ、国際交流の重要性を改めて実感できる。今後も、徳山東ロータリークラブは、国際交流を促進するために、様々なプロジェクトを推進していく予定である。

左から沖本委員長、山本会長、フンさん、竹重委員長、トアンさん、丹川市長、森田康夫副市長

下松市長を表敬訪問した際の新聞記事